

- 問1 平安時代初期、遣唐使とともに唐へ渡って仏教を学び、帰国後に新しい宗派を開いた最澄と空海について述べた文として、正しいものはどれですか。 (2025年 沖縄県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|---|--|
| 1. 最澄は高野山に金剛峯寺を建てて真言宗を広め、空海は比叡山に延暦寺を建てて天台宗を広めた。 | 2. 最澄と空海は、遣唐使が停止された後に日本独自の国風文化を背景として、平仮名を用いた布教を行った。 | 3. 最澄は比叡山に延暦寺を建てて天台宗を広め、空海は高野山に金剛峯寺を建てて真言宗を広めた。 | 4. 最澄は阿弥陀仏にすがる浄土宗を、空海は座禅を重視する禅宗を、それぞれ平安京の市中で広めた。 |
|---|---|---|--|
-
- 問2 国風文化が栄えた平安時代の貴族の生活空間において、広い庭園を囲むように中心となる建物と周囲の建物が廊下で結ばれた建築様式を何というか。 (2022年 京都府公立入試 類似)
- | | | | |
|--------|--------|--------|--------|
| 1. 書院造 | 2. 寝殿造 | 3. 武家造 | 4. 合掌造 |
|--------|--------|--------|--------|
-
- 問3 11世紀後半、白河天皇が位を譲って上皇（太上天皇）となった後も、宮中（院）において政治の実権を握った政治形態を何と呼びますか。最も適切な語句を選びなさい。 (2025年 埼玉県公立入試 類似)
- | | | | |
|----------|---------|---------|-------|
| 1. 建武の新政 | 2. 摂関政治 | 3. 執権政治 | 4. 院政 |
|----------|---------|---------|-------|
-
- 問4 平安時代中期に貴族の間で発達した「国風文化」における生活様式の変化について、建築と衣服の観点から説明したもののとして正しいものはどれですか。 (2016年 秋田県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1. 建築では日本特有の寝殿造が、衣服では男性の正装である束帯や女性の十二単などが用いられるようになった。 | 2. 建築では禅宗の影響を受けた書院造が、衣服では武士の礼装である直垂や素襦が一般的となった。 | 3. 建築では仏教儀式を独占するための寺院建築のみが発達し、衣服では庶民と同じ麻布の着物が推奨された。 | 4. 建築では大陸の様式をそのまま取り入れた壮大な石造建築が、衣服では活動的な胡服が主流となった。 |
|---|---|---|---|
-
- 問5 現在の十円硬貨にもデザインされている、京都府宇治市に位置する平安時代の建築物の特徴を正しく説明したものはどれか。 (2022年 島根県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. 漆塗りの上に金箔を貼り巡らせた三層の楼閣建築で、庭園には全国の守護大名から献上された石が配置されている。 | 2. 二重の屋根を持つ金堂や五重塔が配置され、飛鳥時代の様式を伝える世界最古の木造建築物として知られる。 | 3. 急な斜面に突き出すように建てられた「舞台造」が特徴で、重厚な瓦屋根と巨大な柱で支えられている。 | 4. 池の中央に建てられた阿弥陀堂を中心とし、左右に翼廊、背後に尾廊を持つ、左右対称の華麗な姿をしている。 |
|---|--|--|---|
-
- 問6 平安時代初期、遣唐使として中国の唐へ渡って仏教を学び、帰国後に比叡山延暦寺を拠点として天台宗を広めた僧侶は誰ですか。 (2020年 群馬県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 1. 最澄 | 2. 鑑真 | 3. 行基 | 4. 空海 |
|-------|-------|-------|-------|
-
- 問7 平安時代に建立された平等院鳳凰堂など、阿弥陀如来を安置するための「阿弥陀堂」と呼ばれる建築様式が発達した背景について述べた文として、最も適切なものを選びなさい。 (2016年 岩手県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|--|--|
| 1. 武士の勢力が台頭し、彼らの質素で力強い好みを反映した禅宗の建築が求められたため。 | 2. 仏教の教えが衰えると考えられた「末法思想」による社会不安から、極楽往生を願う信仰が強まったため。 | 3. 大陸との交易が盛んになり、中国の唐から伝わった最新の寺院建築様式を模倣することが流行したため。 | 4. 鎌倉時代に新しく興った仏教勢力が、民衆にわかりやすく教えを説くための道場として各地に建立したため。 |
|---|---|--|--|
-
- 問8 1185年に発生した壇ノ浦の戦いによってもたらされた歴史的状況の変化について、正しい記述を選びなさい。 (2019年 鹿児島県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|---|--|
| 1. 源氏が平氏を滅ぼしたことで、源頼朝による武家政権（鎌倉幕府）の成立が決定定的となった。 | 2. 源氏と平氏が和解したことで、両者が協力して元（モンゴル帝国）の侵攻に備える体制が整った。 | 3. 朝廷の軍勢が幕府を倒したことで、後鳥羽上皇による天皇中心の政治が再興された。 | 4. 平氏が源氏を退けたことで、平清盛を中心とする貴族的な政治体制がさらに強まった。 |
|--|---|---|--|
-
- 問9 平安時代には、天皇の即位による改元だけでなく、特定の自然現象や社会的な出来事をきっかけに元号を改めることがありました。ある記録では、永延3年に彗星が現れたという「天変」を理由に元号が改められたと記されていますが、このような改元が行われた主な目的として最も適切なものはどれですか。 (2026年 愛知県公立入試 類似)
- | | | | |
|------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|--------------------------------|
| 1. 新しい天皇が即位したことを広く国内外に宣言するため | 2. 天変地異などによる社会の不安を払拭し、人心を刷新するため | 3. 中国の王朝が交代したことに合わせ、日本の暦を統一するため | 4. 大内裏などの重要な建造物が再建されたことを祝賀するため |
|------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|--------------------------------|
-
- 問10 平清盛が行った、武家政権としての経済的な基盤を強化するための政策として最も適切な説明を、次の中から選びなさい。 (2026年 埼玉県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|--|--|
| 1. 全国に守護と地頭を設置し、各地の軍事権と警察権を掌握することで徴税を安定させた。 | 2. 有力な御家人による合議制を導入し、裁判の公平性を高めることで経済活動を活性化させた。 | 3. 新皇と自称して関東に独自の朝廷を樹立し、地方独自の税制を確立しようとした。 | 4. 現在の神戸市にあたる大輪田泊を修築し、中国の宋との貿易を積極的に進めて富を蓄えた。 |
|---|---|--|--|
-
- 問11 平清盛が推進した日宋貿易が、当時の日本社会に与えた経済的な影響に関する説明として、最も適切なものはどれですか。 (2019年 岩手県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|--|
| 1. 勘合符を用いることで、倭寇（海賊）による密貿易を厳しく制限し、幕府の財政を安定させた。 | 2. 日本から象牙や香料を輸出し、引き換えに鉄砲やキリスト教の布教を認める条約を結んだ。 | 3. 朝廷が貿易を独占したため、地方の武士が経済的に困窮し、平氏打倒の機運が高まった。 | 4. 中国から大量の宋銭（銅銭）が輸入され、国内の貨幣経済が広まるきっかけとなった。 |
|--|--|---|--|
-
- 問12 平安時代中期、藤原道長が一条天皇に対して強力な政治的影響力を行ってきた背景について、当時の「摂関政治」の仕組みから説明したもののとして最も適切なものはどれですか。 (2026年 愛知県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|---|--|
| 1. 道長は一条天皇に代わって軍事指揮権を掌握し、武力を背景に平安京の治安維持を一身に担うことで、天皇の政治的発言権を奪った。 | 2. 道長は一条天皇の住まいである里内裏を私費で建設し、経済的な援助を条件に、天皇が独断で政治判断を行うことを禁じた。 | 3. 道長は遣唐使の廃止を提案して大陸との外交を独占し、海外貿易で得た富を天皇に分配することで絶対的な忠誠を誓わせた。 | 4. 道長は一条天皇の叔父という立場にあり、さらに自身の娘である彰子天皇の后として入内させることで、天皇と密接な血縁・婚姻関係を築いた。 |
|---|---|---|--|

答え合わせ・解説

問1	答え 3 最澄は比叡山に延暦寺を建てて天台宗を広め、空海は高野山に金剛峯寺を建てて真言宗を広めた。	最澄（伝教大師）は比叡山（滋賀県・京都府）を拠点に天台宗を、空海（弘法大師）は高野山（和歌山県）を拠点に真言宗をそれぞれ開きました。これらは平安時代初期の仏教の特徴であり、奈良時代の仏教が政治と深く関わっていたのに対し、山の中での厳しい修行を重んじる「密教」としての性格を強く持っていました。選択肢にある浄土宗や禅宗は、後の鎌倉時代に広まった仏教です。
問2	答え 2 寝殿造	国風文化の代表的な建築様式である寝殿造は、貴族の邸宅に用いられました。池や木々を配置した庭園の景観を重視し、風通しの良い開放的な構造が特徴です。これは日本の自然環境や貴族の生活習慣に適応した建築の形といえます。
問3	答え 4 院政	1086年に白河上皇が始めた政治の仕組みです。それまで藤原氏が摂政や関白として権力を振るっていた「摂関政治」を抑え、天皇の父や祖父である上皇が自らの子孫に皇位を継がせながら政治を主導しました。この仕組みは、のちに武士である平清盛が台頭する12世紀後半まで、政治の大きな流れとなりました。
問4	答え 1 建築では日本特有の寝殿造が、衣服では男性の正装である束帯や女性の十二単などが用いられるようになった。	国風文化の時代、生活のあらゆる面で日本風の形式が整えられました。建築様式では、風通しを考慮した「寝殿造（しんでんづくり）」が貴族の住宅として定着し、衣服においても、日本の気候に合わせて重ね着をする「束帯（そくたい）」や「十二単（じゅうにひとえ）」といった貴族独自の装束が完成しました。これらは、中国の模倣ではなく日本の生活環境に適応させた結果です。
問5	答え 4 池の中央に建てられた阿弥陀堂を中心とし、左右に翼廊、背後に尾廊を持つ、左右対称の華麗な姿をしている。	平等院鳳凰堂は、阿弥陀如来が住む極楽浄土の宮殿を模して造られました。大きな池の中に島を設け、そこに建物を配置することで、水面に建物が映り込むように設計されています。この左右対称の美しい構造は、当時の貴族が好んだ寝殿造の影響を強く受けており、当時の高度な建築技術と美意識を現代に伝えています。
問6	答え 1 最澄	804年に最澄は遣唐使とともに唐へ渡り、翌年帰国して天台宗を伝えました。比叡山に建てられた延暦寺は、その後の日本仏教において多くの名僧を輩出する修行の場となりました。同時期に真言宗を伝えた空海と並び、平安仏教の礎を築いた人物です。
問7	答え 2 仏教の教えが衰えると考えられた「末法思想」による社会不安から、極楽往生を願う信仰が強まったため。	1052年は末法の初年とされ、当時の人々は現世での救いよりも、死後に阿弥陀如来によって極楽浄土へ導かれることを切実に願いました。この浄土教の流行により、各地に阿弥陀如来を祀るための阿弥陀堂が建てられるようになりました。平等院鳳凰堂はその最高峰であり、池の中に建てられた姿は、極楽の池に浮かぶ宮殿を模しています。他の選択肢にある禅宗や鎌倉新仏教、唐の様式の模倣は、時代背景や文化的な特徴が異なります。
問8	答え 1 源氏が平氏を滅ぼしたことで、源頼朝による武家政権（鎌倉幕府）の成立が決定定的となった。	壇ノ浦の戦いで平氏が滅亡したことにより、源氏による全国支配の基盤が固まりました。この勝利を経て、源頼朝は守護・地頭の設置を認めさせるなど、武士が政治の主導権を握る鎌倉時代へと本格的に移行していくことになります。
問9	答え 2 天変地異などによる社会の不安を払拭し、人心を刷新するため	平安時代には、地震や火災、彗星の出現（天変）といった不吉な出来事が起こると、それを理由に元号を改める「災異改元」が頻繁に行われました。これは、悪いことが続く社会の空気をリセットし、人々の不安を鎮めて世の中を安定させようとする意図がありました。選択肢にある「天皇の即位」による改元（代始改元）とは別の目的で行われていた点に注意が必要です。
問10	答え 4 現在の神戸市にあたる大輪田泊を修築し、中国の宋との貿易を積極的に進めて富を蓄えた。	平清盛は、武力だけでなく経済力も重視しました。現在の神戸市にある大輪田泊（兵庫の港）を大規模に改修し、中国の宋との間で日宋貿易を推進しました。この貿易によって大量の宋銭や高級品がもたらされ、平氏が権勢を誇るための大きな財源となりました。
問11	答え 4 中国から大量の宋銭（銅銭）が輸入され、国内の貨幣経済が広まるきっかけとなった。	平清盛は日宋貿易を通じて宋（中国）から大量の銅銭（宋銭）を輸入し、これを国内に流通させることで、それまでの物々交換を中心とした経済から、貨幣を用いた経済への転換を促しました。これにより平氏一門は莫大な富を蓄え、政治的な地位を強固なものにしました。なお、勘合符を用いる貿易は室町時代の足利義満によるものであり、鉄砲やキリスト教が伝来したのは戦国時代のことです。
問12	答え 4 道長は一条天皇の叔父という立場にあり、さらに自身の娘である彰子を天皇の后として入内させることで、天皇と密接な血縁・婚姻関係を築いた。	藤原氏は、自分の娘を天皇の后（中宮）とし、その間に生まれた子を次の天皇に立てることで、天皇の外祖父（母方の祖父）や叔父として摂政・関白の職に就き、政治の実権を握りました。道長は一条天皇の叔父であるだけでなく、娘の彰子を入内させることで、この婚姻関係に基づいた支配体制を揺るぎないものにしました。